

「第1回国際北極研究シンポジウム」

First International Symposium on the Arctic Research (ISAR-1)

1. 主 催 日本学術会議 地球惑星科学委員会 国際対応分科会
日本学術会議 環境学委員会 IGBP/WCRP 合同分科会
国際北極研究シンポジウム実行委員会
2. 後 援 国立極地研究所(NIPR), 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) ,
宇宙航空研究開発機構 (JAXA) , 国際北極研究センター(IARC),
日本科学未来館 (Miraikan)
3. 日 時 平成20年11月4日(火) - 6日(木)
4. 場 所 日本科学未来館 みらいCAN ホール (東京都江東区青梅)
5. 次 第

開催趣旨

近年の地球温暖化に伴う気候変動が、自然界のフィードバックを介して最も顕著に現れると言われているのが、北極圏、およびその周辺の北極域である。2007/2009年に実施される国際極年(IPY)に向けて、国際的な枠組みの中で、北極域における気圏―水圏―陸圏の総合的・学際的な研究が進行中である。北極域の観測網を整備し、そこに内在するさまざまなフィードバック過程を包括的に理解し、地球温暖化の将来予測に役立てるためには、複数の専門分野や学界が北極域という共通のキーワードの下に集結し、密な情報交換により相互理解を深めることが重要課題である。この認識に立って、今後は学術会議や総合科学技術会議の動向を鑑み、また研究者の交流という点からも、これらの北極域に関係した国際会議や国内研究集会を、可能な限り共同で開催することが望まれる。そこで ad hoc な会として北極域研究検討委員会を立ち上げ、国内外の北極域研究者コミュニティの調整を図り、各種の国際会議や国内研究集会を企画実施することを検討した。

北極域研究検討委員会は、次の企画として NIPR による国際シンポジウム、IARC 日本委員会による GCCA、そして JAMSTEC が推進している WCRP/CliC の北極域の活動会合を統合した新たな国際会議として「国際北極研究シンポジウム」を 2008 年 11 月に開催する予定である。そのために、国際北極研究シンポジウム実行委員会を立ち上げて、開催準備に取り掛かっている。第1回開催ということもあり、便宜上、北極域研究検討委員会が実行委員会を兼ねることにした。このシンポジウムでは、北極域で生起する諸現象を包括的に探求し、先端研究の最新情報を共有することで、北極域科学の総合的議論を深めることを目的とする。北極域の温暖化については、その実態と数値モデルによる将来予測、北極振動の力学的解明とそれに 関連する大気海洋相互作用、大気陸面相互作用の把握、海氷の長周期変動と大気海洋循環との関係について議論する。北極域の水循環に関しては北ユーラシアおよび周辺地域を中心に、水循環・気候変動、植生変動、雪氷・凍土、氷河の縮退、大気・陸面相互作用などをキーワードとして、気候・水循環研究の成果について議論する。そして

北極域の生態系に関しては北極域の温暖化とそれに伴う生態系の変化や環境動態研究の新展開、ツンドラ・北方林および海洋生態系の感受性と物質循環、人間活動の影響などについて議論する。

北極域研究に携わる多くの研究者が、「北極域の温暖化」を共通テーマとして、一同に会し、国際的な視野で最新の情報交換を行うことで、本シンポジウムが今後の北極域研究の発展に貢献することを期待している。国内の関連各期間においては、この提案にご賛同いただき、ご協力いただけることを切に望むものである。

開会あいさつ

I シンポジウムの概要（議論を期待している話題）

- 1) 北極気候とシステムの変動
- 2) 北極における大気—海洋—陸上におけるプロセス研究
- 3) 北極システムに取り込まれるフィードバックの理解
- 4) 北極と地球の気候でのフィードバックと影響解析
- 5) 北極に中心を置いた地球および地域的なモデリングの応用
- 6) 北極がアジアの気候に及ぼす影響

II 討論を活発にするために以下のセッションを用意する

- 1) 大気科学と大気化学
- 2) 海洋と海氷
- 3) 水循環、永久凍土、雪氷
- 4) 氷床と氷河
- 5) 陸上生態系と温室効果気体
- 6) 海洋生態系
- 7) 包括的モデリング研究

III 特別セッション

- 1) 北極域の急激な温暖化
- 2) IPY の最近の成果
- 3) 北極研究のアジアフォーラム

閉会あいさつ